



WORK Concept For Baja Forged Beadlock 2015 MODEL

Baja1000やTHE Mint400などだけでなく、普段の練習にも使用しているBaja Forged Beadlock 2015 MODEL。数々のキスが付いているが、これまでにトラブルは一度もないというホイールだ。



T-GRABICの歩み 2015-2018

2018

CRAG T-GRABICのダブルギアスポークデザインを踏襲しつつも、センター部を力強い6本スポークデザインとしたのがCRAG T-GRABIC II。Baja Forged Beadlock 2016 MODELを元にデザインされた鍛造ホイールである。



2017

Baja Forged Beadlock 2015 MODELのデザインを引き継いだCRAG T-GRABIC。ダブルギアスポークデザインは軽量化と高剛性を高次元で融合できることから採用された。機能美の集約ともいえる革新的なデザインのホイール。



2016

Baja Forged Beadlock 2015 MODELのコンセプトも性能も引き継ぎながらホイール外部のホールデザインを若干大きくしたデザインとなるBaja Forged Beadlock 2016 MODEL。レースマシン固定時の利便性を考慮している。



2015

選手がオリジナルのマシンで参加を決めたBaja1000への出場をきっかけに開発されたワンオフの鍛造ホイールがBaja Forged Beadlock 2015 MODEL。CRAG T-GRABICのベースデザインとなったモデルだ。



ゼロからの挑戦

WORKが大切に育ててきた4WD&SUV専用ホイールCRAGシリーズの生い立ちを探る!

取材協力: 堀 郁夫/堀 雄大
撮影協力: WORK (https://www.work-wheels.co.jp)

堀 郁夫からはレーシングマシンも基本的に自分達のトレーラーに積んで運ぶんだけど、その時に、タイヤをホイールを通して固定するんだよ。ところが、当時に使っていたタイヤが、2015モデルだと穴が小さくて通らなくて(笑)。

編集部性能やデザインではなく、ホイールの穴にタイヤが通らなかつたことが、2016モデルの登場の理由だったのですか! たまたかのホイールは2018年に登場するCRAG T-GRABIC IIの元となったデザインで、結果としてT-GRABIC IIシリーズのバリエーション増加にも繋がっていますね。

堀 雄大のT-GRABIC IIシリーズは、Baja Forged Beadlock IIの鍛造とは異なり鍛造ですが、ボクはこれを履いて実際にアジアンクロスラリーに出場しています。鍛造の市販品でも、T-GRABIC IIシリーズは十分に高い剛性と軽さを実現しているんですよ。

また、アジアンクロスカントリーラリーは特にビードロックホイールだとタイヤの組み替えができない状況が多い。結果として、川の中で切った時の1回しかタイヤ交換はしなかつた。それほど信頼性が高いんだよ、T-GRABIC IIシリーズは。

堀 雄大は、2022年3月9日か

ら13日に掛けて行なわれたThe Mint400にもBaja Forged Beadlock 2016モデルを履いて出場し、見事にクラス優勝を果たしている。WORK CRAG T-GRABIC IIシリーズは、勝つためのホイールとして誕生した背景を持っているのだ。

日本が誇るアルミホイールメーカーであるWORK。数多くリリースしているホイールブランドの中でも、オフロードに特化したものがCRAG (クラグ)だ。Cross Over (クロスオーバー)、Racing (レーシング)、Gear (ギア)の頭文字を名前に持つこのブランドは、コンペティションシーンで勝つために作り出されたという背景を持つ。ここでは製品誕生の裏側にスポットを当て、CRAGの素晴らしさを紐解いてみる。



5月15日に開催されたLOTTEスーパー耐久2HRレースに堀親子がBaja Forged Beadlock 2015 MODELを履いたハイラックスで出場。目的は堀 雄大選手の練習でダイナミックな走りを披露した。

× キンコで開催される世界的なオフロードレース「Baja 1000」で戦える国産ホイールを作りたい。そうWORKに話をもち込んだのは、オフロードレーサーの堀 郁夫さんだ。堀さんといえば、JFWDAチャンピオンシップレースシリーズで10年連続チャンピオンを獲得した後、1991年にBaja 1000に参戦し、日本人初の完走を成し遂げ、2002年のBaja 1000ではクラス優勝を果たした人物だ。その堀さんが常々思っていたのが、軽いビードロックホイールがあったらいいの、ということだった。

堀特にホイールに関しては、アメリカ製のビードロックの装着率が非常に高く、国産メーカーはほとんど無いに等しい状況だったんだよね。タイヤに関しては、まずとヨコハマのジオランダーを使っていた、市販のタイヤで勝つというのがボクのポリシーのひとつでね、そこに日本製の軽いビードロックホイールを加えたいと思ったのが、WORKのホイールを履きまわったこと。それで2015年のBaja 1000へその参加を決めた後に、WORKさんへ

相談しに行つたんだよ、勝てるホイールを作つてくれなかつた(笑)。

編集部:日本には多くのアルミホイールメーカーが存在しますが、その中でWORKを選んだ理由は何だったのでしょうか?

堀:アメリカにもビードロックホイールは数々あるんだけど、どれも本当に重い。堅牢さを重視している結果なのだろうけど、レースする側としては、軽いにしたいのはない。ハンドリングにもドライバーの疲労度も軽いことがメリットになることは明確だから、でも軽くて割れてパーストを引き起こすようなホイールでは困る。特にBaja 1000のような1000マイルをぶっ通しで走るレースでは、パーストによるタイムロスが大きく順位を落とす原因となる。しかも砂漠やオフロードのみならず、オンロードも入るので、あらゆる路面でタイヤを支えるホイールでなければ勝てないんだ。2015年に登場したBaja 1000は、オリジナル設計の2WDバギーでの参戦となったので、ホイールに関するデータなども無かつたんだけど、これまでの経験からボクの希望を伝えながら、WORKさんに作つても

らつたんだよ。確か最初に依頼したのは30本だったかな。完成したそのホイールは、とにかく軽くて、市販の4WD用ホイールとほぼ同じ重量だった。ビードロック付きだと1.5倍は重くなるのが一般的だったから、あの凄く感動したね。

編集部:軽くて堅牢というビードロックホイール以外に、堀さんがWORK側に伝えた要望とは何だったのでしょうか?

堀:まずエアバルブ。この品質が良いものでなければダメなことももちろん、石などがヒットしにくい形状であることも重要。その回答として、小さなホールにエアバルブを仕込むことで、必要以上に倒れないものとしてくれた。また、ビードロックリングが脱着しやすいように、ボルトが回しやすい形状としてくれていたんだよね。ドロなど詰まりにくい形状とするなど、細部にまでこだわっているのがBaja Forged Beadlock 2015モデル。

ディスクデザインはWORKさんが強度と軽量化を達成させるための結果で、デザイン優先で誕生したものではないんだよ。ボクはカッコイイデザインのホイールだと感じしていたんだけど、機能優先だと知って嬉しかったね。目的は何より勝つホイールだったから。

編集部:2015モデルは、2017年に登場するCRAG T-GRABICのベースデザインとなりました。ただ、2016年にはBaja Forged Beadlock 2016モデルが登場しましたが、これはどうしてですか?

堀:2015モデルは、トラブルもなく、実は今も当時のホイールを使い続けているほど信頼性が高いホイール。ただ、ひとつだけ難点があつた、それを解消してくれたのがBaja Forged Beadlock 2016モデルだったんだ。

編集部:その難点とは?

鍛造製法

多種多様なデザイン性を生む鍛造



岡山第二工場ではアルミのインゴットを精錬し、低圧鍛造製法で3ピースホイールのディスクを製作。不純物を徹底的に取り除き、アルミ分子の均一化を実現するなど、材料レベルからこだわり抜く。これが高い強度へと繋がっている。

クラフトマンシップ

熟練の職人による手作業の数々



高い組立精度が要求される3ピースホイール。一連の工程には熟練した技術者の匠の技術が不可欠。またパーツを組み立てるのではなく、真円精度を確認しながら作業は行なわれる。

磨き・塗装・各種加工

最新・最高のテクノロジーを駆使



鍛造後に熱処理を行ないさらに強度を高められたホイールは、塗装や磨きに向け、シット加工や余分な部分の切削が行なわれ製品の形となる。塗装や磨きは、別工場での熟練の職人によって実施。多くの人の手を経ることによって、CRAGは産み出されている。

リム加工

強度と剛性を徹底的に高めたリム



岡山第二工場では、NC旋盤のスピンニング加工によって一枚のアルミ板から絞り出すようにしてリムを製作。継ぎ目のないリムは、抜群の強度を誇る。3ピースホイールの場合、インナーリムとアウトナーリムのサイズの組み合わせ次第で、様々なインセットを実現することが可能だ。

検査

ハイテック&アナログの両面で検査



ワークでは徹底した品質管理を行なっている。完成品の検査はもちろんだが、製造工程において実施されるマイクロゲージを使った精度チェック、締め付け精度の徹底など、手間ひまを惜しまない徹底した品質へのこだわりは特筆ものだ。

MADE IN JAPAN品質は職人と最先端技術に支えられる

現在CRAGは、鍛造1ピースと3ピースホイールをラインアップ。国内4拠点の自社工場での徹底した品質管理のもと、匠の技術と自動化を組み合わせ製造されている。



カスタムカーに特化した3ピースホイール、CRAG GALVATRE

本物のピアスボルトを使用する3ピース構造

16
インチ

スペック

- サイズ: 16×7.0J (13~25)、16×7.5J (19~32)、16×8.0J (25~38)、16×8.5J (19~44)、16×9.0J (13~51)
- カラー: カットクリア (MSP)、ブラックシャフターマシニング (BC)
- 構造: 鍛造3ピース
- 規格: JWL、VIA
- 付属品: センターキャップ、エアバルブ
- 価格: 61,600円~77,000円



- 装着カラー: ブラックシャフタークリアレッド
- マatchingサイズ: 16×8.0J インセット 25/5H-114.3
- マatchingタイヤ: BFGoodrich A/T KO2 (245/70R16)
- タイヤ: BFGoodrich (<https://www.bfgoodrichtires.co.jp>)
- 車庫: センタースクエア (<http://www.centersquare758.com>)



基本のディスクカラーは王道のカットクリアとブラックシャフターマシニングの2色だが、多彩なセミオーダーカラー12色に加え、リムバリエーション6種、ピアスボルト3種(標準色含む)、センターキャップ2種(5H-114.3のみに設定)までを揃えた、豊富なカラーは全1000通り以上。ここまでのフルカラーバリエーションはほかに存在しないとんでもない。まさにWORKの強みを活かした自由自在なカラーコーデが可能だ。カラリズム5色、カラリズムクリア6色の設定もあり。

WORKEMOTION D9R

ワークエモーションD9R
デザイン力の勝利である。WORKの幅広い商品ラインナップ、デザインワークは流石である！

デリアカD・5用のホイールのP・C・Dは、国産乗用車の殆どが採用する114.3。つまり、キッチンと強度を満たしていれば、乗用車用を組み合わせたことも可能である。写真のロードハウスのデリアカD・5は、CRAGではなく、スポーツカー御用達のWORKEMOTION D9R(サイズは18インチ)を合わせている。剛のCRAGに対して、艶のワークエモーション。ガッツリ車高を上げたゴリゴリの四駆スタイルにも関わらず、ワークエモーションを履くだけで、足もとに軽快感がプラスされる。これはデザインワークの勝利である。WORKの幅広い商品ラインナップ、デザインワークは流石である！



CRAG

クラッグ ガルバトレ

GALVATRE

アウトドア感育成の心得。
16インチを一新に高める★ホイール&タイヤの組み合わせ

強度に配慮しながら軽量化と剛性が確保されたフォルムを実現

ネオ・オフローダーを象徴する立体的造形

16
インチ

スペック

- サイズ: 16×7.0J (38)
- カラー: マットカーボンカトリム(MGMRC)/アッシュドチタンカトリム(AHGRC)
- 構造: 鍛造1ピース
- 付属品: センターキャップ、エアバルブ
- 価格: 46,200円



- 装着カラー: マットカーボンカトリム
- マatchingサイズ: 16×7.0J インセット 38/5H-114.3
- マatchingタイヤ: FALKEN WILDPEAK A/T (235/70R16)
- タイヤ: FALKEN (<https://www.falken.co.jp>)
- 車庫: センタースクエア (<http://www.centersquare758.com>)

リム周辺部と、ディスク中央部の2つのギアが組み合わさる様なデザインが、T-GRABICの最大の特徴。ビードロック風のデザインをリムエンド部分に施すが、ただ色を変えるのではなく、立体感が感じられる形状を採用。まさに世界のオフロードシーンから産まれた、レース直系のホイールと言えるだろう。



4 WD用ホイールを展開するワーク。その先鋒としてデビューしたのが、T-GRABIC(ティーグラビック・ティーグラビック2も展開)だ。バハ1000やアジアクロスカントリラー用のレーシングホイールから得たデータを市販モデルに落とし込み、その耐久性は、実際にレースで使った選手や青木選手から高評価を得られている。T-GRABICは、1ピース構造を採用しつつ、本格的なオフロード用のビードロックホイールを想起させるリムデザインが特徴である。別パーツの様に感じられるように立体感を追求。もちろん軽さも重視し、可能な限り贅肉を削ぎ落とした、アスリートのような引き締まった肉体系も感じさせる。

T-GRABICと並び、人気のモデルが「王道のCRAGブランドの凱旋」という意味を持つガルバトレである。長年4WD・SUVに乗る人には懐かしく、近年乗り始めた人には、他社とは一線を画す個性が新鮮さを感じるはず。特筆すべきはバリエーションの豊富さ。3ピース構造を最大限に生かし、リム/ディスク/ピアスボルト/センターキャップ/エアバルブまで、そのすべてのカラーをカスタムオーダーメイドできるような「標準ディスクカラー2色に加え、カスタムカラーとカスタムリムアレンジカラーの組み合わせ」と3色のピアスボルトから選択が可能で、その組み合わせは実に1000通り以上。また、インセットの選択が自在なので、タイヤとホイールを変更するだけのカスタマイズから、サスペンションやボディパーツを装着するガッツリカスタマイズまで、多様なグレードアップを丸ごとカバーしてくれる。つまり、ガルバトレならオンリーワンのスタイルを創造することができるのだ。

4 WD用ホイールを展開するワーク。その先鋒としてデビューしたのが、T-GRABIC(ティーグラビック・ティーグラビック2も展開)だ。バハ1000やアジアクロスカントリラー用のレーシングホイールから得たデータを市販モデルに落とし込み、その耐久性は、実際にレースで使った選手や青木選手から高評価を得られている。T-GRABICは、1ピース構造を採用しつつ、本格的なオフロード用のビードロックホイールを想起させるリムデザインが特徴である。別パーツの様に感じられるように立体感を追求。もちろん軽さも重視し、可能な限り贅肉を削ぎ落とした、アスリートのような引き締まった肉体系も感じさせる。

T-GRABICと並び、人気のモデルが「王道のCRAGブランドの凱旋」という意味を持つガルバトレである。長年4WD・SUVに乗る人には懐かしく、近年乗り始めた人には、他社とは一線を画す個性が新鮮さを感じるはず。特筆すべきはバリエーションの豊富さ。3ピース構造を最大限に生かし、リム/ディスク/ピアスボルト/センターキャップ/エアバルブまで、そのすべてのカラーをカスタムオーダーメイドできるような「標準ディスクカラー2色に加え、カスタムカラーとカスタムリムアレンジカラーの組み合わせ」と3色のピアスボルトから選択が可能で、その組み合わせは実に1000通り以上。また、インセットの選択が自在なので、タイヤとホイールを変更するだけのカスタマイズから、サスペンションやボディパーツを装着するガッツリカスタマイズまで、多様なグレードアップを丸ごとカバーしてくれる。つまり、ガルバトレならオンリーワンのスタイルを創造することができるのだ。

株式会社 ワーク <https://www.work-wheels.co.jp>
〒577-0016 大阪府東大阪市長田西4-1-13
☎06-6746-2859(西日本コールセンター) ☎052-777-4512(中日本コールセンター) ☎048-688-7555(東日本コールセンター)

WORK

CRAG

クラッグ ティーグラビック

T-GRABIC